

平成29年度 北海道大学大学院医学院修士課程入学式告辞

皆さん、北海道大学大学院医学院修士課程への入学、おめでとうございます。教職員一同を代表してお祝い申し上げますとともに、皆さんを心から歓迎いたします。

北海道大学大学院医学院の前身である医学研究科は新制大学院制度の発足に伴って昭和30年に設置されました。その後、平成12年に大学院重点化が行なわれ、従来の学部を中心とした教育研究組織から大学院を中心とした教育研究組織へと移行し、大学院における教育と研究の充実を図りました。

そして平成29年4月、北海道大学大学院医学研究科は、変化の著しい社会のニーズに応える人材を機動的に輩出するため、これまで教育組織と研究組織が一体であった「研究科」を大学院生が所属する「学院」と教員が所属する「研究院」に分離し、異分野を有機的に融合したグローバルな大学院教育の展開を可能にしました。すなわち、学院での教育は複数の研究院および附置研究所等の教員が担当できるようになり、研究領域に縛られることなく教育資源の再配分を可能にしました。この新システムの導入により、社会が要請する新たな教育を実施する場合、教員組織再編を伴わずに迅速に教育組織を設置することが可能になりました。

医学院の理念として、「世界をリードする先進的医学研究の推進、高い倫理観と豊かな人間性を有する医学研究者・医療人の育成による人類の健康と福祉への貢献」を掲げ、医学・生命科学・社会医学（公衆衛生学）に関する高い倫理観及び高度な専門的知識と研究及び教育・実践能力を備えた人材の養成を教育目標としています。

修士課程については、他の多くの大学に先駆けて平成14年に修士課程（医科学）を設置しました。本課程は、医学以外の学問体系を学んできた方々に最新の医科学や社会医学を教授することにより、異分野の知の融合を促進し、独創性と複合的な視点を兼ね備えた研究者や高度専門職業人を養成することを目的としています。平成29年度から、新たに「公衆衛生学コース」を設置し、公衆衛生修士号を取得できる教育システムを導入しました。さらに、高齢化・過疎化など北海道独自の地域の諸課題に対応できる人材を迅速に社会へ送り出すため、医師、歯科医師、薬剤師などの医療職に従事し、実務経験を有した方々に対して1年で修了できる1年コースも設定いたしました。

医学院は多くの優れた研究者を擁しており、医学のさまざまな領域において国際水準の研究を行っています。基礎医学の領域では、脳やがん、免疫に関する先端的研究をはじめとして、生体の構造、生理、病理に関する多くの優れた研究が展開されています。社会医学の領域では、現代社会が直面する諸問題に医学的見地からアプローチするユニークな研究が行われています。臨床医学の領域では、病因の解明、物理・工学を応用した最先端診断・治療機器の開発、ヒト化モデルや高機能新素材を用いた新しい治療法の開発など、難治性疾患の克服を目指す研究が展開されています。これらの研究は、国内外で高く評価さ

れ、さまざまな国家的大型研究プロジェクトが医学研究院を中心に展開されています。

最先端の医学研究を学ぶ皆さんには、優れた科学者のひとりとして、崇高な倫理観のもとに新たな知の創造や社会の諸課題に主体的に取り組み、社会の期待にこたえていくことが求められています。北海道大学大学院医学院は皆さんの期待に十分応える能力をもっています。未来の医学・医療を支える医学院1期生の学生諸君の入学を歓迎します。

研究は厳しく、時に苦痛を伴うものではありますが、同時にまた大変楽しいものでもあります。皆さんが有意義な学生生活を過ごされることを祈念して私の告辞とします。

平成29年4月3日

北海道大学大学院医学院長 吉岡 充弘